

問題提起事項

若手政治家、会員への

(意法)
教育

政治家もジャーナリストも文化人も、日本は現在、第二の敗戦ともいうべき危機的状況にあると口を揃えています。

私達世代以上の者には「何だ、これ位の事で、、、」と思っている者は相当います。

敗戦時、赤字国債は、恐らく当時のGDPの4, 5倍はあったでしょう。生産設備は壊滅状態、多くは家を焼かれ、家族を失い、食料は底をつき、現代の人々には想像を絶する凄まじい状態だったのです。家族も家財も全く完全に失い、辛うじて探しあてた僅かの金融資産（それでも家、4, 5軒分）も二十歳そこらの世俗の知恵を持たない私は、あと思う間にモラトリアムで全額凍結されました。家の再建と転進のための学資にしようと思っていたのですが、、、5, 6年後に解除されたときにはインフレのため公務員初任給の三ヶ月分の値打ちになっていました。ただ、幸いなことに私の俸給は、課長、校長クラスの額で生活に困ることはありませんでした。私の親戚、知人の多くは不在地主や恩給生活者、サラリ〜マンが多く、一年と経たないうちに無残な困窮生活に陥り、売り食い生活を余儀なくされるなかで、辛うじて糊口をしのぐといった状態においつめられ、多くの中産階層は殆ど没落していったのです。

私の言いたい事は、私達世代以上は、財産税、モラトリアム、農地解放、インフレ等に耐えて兎も角、子孫に付けは残しませんでした。その意味で中産階層は責任はとったと思います。

私が最も許し難いのは、現在の指導層は口では巧妙な言辞を弄しながら、いろいろな面において平然と付けを次世代に残していることです。そして、そのような政治家を選ぶ国民が多数であることです。

私は原爆で家族を失い、東京、横浜、神戸、沖縄等の廃墟を具に見ました。食をねだる多数の孤児達、物品や体まで売って日々を過す、亡き妹達と同世代の少女達多数を波止場や街中で目の当たりにしたとき、腹の底から噴き上げてくる怒りをどうしようもありませんでした。このような悲惨な状況を生み出したのは教育なのだ。特にあの昭和十年代以降の教育に問題があったのだと思いました。若気の至りで、「よし、文部省の教育体制をぶっ壊してやろう」と本気で考えました。所詮、螻蛄の斧にしか過ぎなかったのですが、思う存分暴れまわった我儘な教師でした。今、振り返ってみてやはり落第教師だったと自己批判しながらも、ある種の自己満足も持っています。教師落第記を書き殴っていますが、いつかお眼にかける機会があるかもしれません。

爺のたわ言、失礼しました。

そして、やはり、若い世代の方々に大きな夢と期待を抱き続けています。